

基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
生物物理学分科会（第24期・第3回）
および基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同
IUPAB分科会（第24期・第3回）

議 事 要 旨

- 1 日 時 令和元年5月29日（水）13：30～15：30
- 2 場 所 日本学術会議5階 5 - A（1）（2）
- 3 出席者 上田昌宏、上村想太郎、宇高恵子、老木成稔、片岡幹雄、神取秀樹、佐甲靖志、七田芳則、諏訪牧子、曾我部正博、寺北明久、徳永万喜洋、豊島陽子、永井健治、中村春木、難波啓一、野地博行、原田慶恵（18名）
欠席者 岡田眞里子、笹井理生、嶋田一夫、杉本亜砂子、美宅成樹、吉川研一、山縣ゆり子

会議に先立ち、それぞれの分科会の出席者数が委員総数の2分の1以上を充たしており、両分科会が成立していることが確認された。

4 議題

- （1）前回議事要旨の確認
- （2）IUPAB congress 2023の開催について
- （3）「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」について
- （4）次回の公開シンポジウム、学術フォーラムの開催について
- （5）次回分科会の開催予定について
- （6）その他

5 議事要旨

(1) 前回要旨の議事確認(資料1)

第24期生物物理学分科会の原田慶恵委員長から、前回(第2回)の議事録の内容に関してメール審議で確認済みであることが報告され、承認された。

(2) IUPAB congress 2023の開催について(資料3)

IUPAB野地博行委員長から、IUPAB congress 2023開催の準備状況に関し説明があった。IBC2023準備委員会で準備してきた。その中で、国際関係委員会の新設の必要性が議論され、提案することにした。

生物物理学会における国際関係委員会の新設案

- ・IBC2023実行委員会 ... IBC2023終了時まで
- ・国際関係委員会 ... IBC2023終了後も残る

IBC, ABA, 二国間など、国際関係の活動を個別対応でなく戦略的に対応。

- ・国際関係委員会の予算を、生物物理学会に出してもらおう。6月の理事会に諮る。
- ・海外の若い人たちに来てもらって、日本の生物物理学会に興味を持ってもらおう。例えば、IBC2023のサテライトでサマースクールを行う。

(3) 「学術の大型研究計画に関するマスタープラン」について(資料2)

難波啓一委員から、学術会議の「学術大型研究計画マスタープラン」申請に関して説明があった。6年前、3年前に出してきたので、第24期生物物理学分科会でも、「学術大型研究計画マスタープラン2020」に2019年3月に継続して申請した。近年の新しい学術・技術的な発展を踏まえたものにした。

前回の反省から、特定の大学が主体になって用地の確保など積極的に推進するとの内容にし、生物物理学会はそれを強くサポートするとの体制を進めるべきである。どこの大学が主体になるか、生命科学の中でのコンセンサスなど、議論を経て合意をとってゆく必要がある。

永井健治委員から大阪大学における状況の説明があり、現時点ではどこの大学が中心になるかの生物物理学分科会における総意がまだ得られてない状況だが、大阪大学では前回の反省から、「大阪大学先導的学際研究機構 超次元ライフイメージング研究部門」を新設しており、受け皿となることができる。

(4) 次回の公開シンポジウム、学術フォーラムの開催について

原田慶恵委員長から次回の公開シンポジウムについて、内容と担当者を議論したいとの提案があった。担当者として、永井健治委員、原田慶恵委員を選出し、オーガナイザーの選定など準備を進め、年度内の開催を目指すこととした。

(5) 次回分科会の開催予定について

年2回の開催予定で進めてゆく方針で、公開シンポジウムと合わせて行うこととして、日程が決まったら連絡する。

(6) その他

- ・「IUPAB のjournal, BREVからの特集号のお誘い」(中村委員、追加資料)
20th IUPAB Congress in Brazil、日本生物物理学会の活動等に関する特集記事を載せたい。IUPAB congress 2023の宣伝にも良いのではないか。
6月のBPPBの編集委員会、生物物理学会理事会で議論する予定。
- ・若手を生物物理学会に呼び込むための方策を自由討論した。企業との連携で新しいロールモデルが出てきているので、生物物理学会でも新しい取組を行ってゆきたい。